湧水都市まちだ

～湧水から“ふるさと町田”再発見～

町田市湧水マップ

東京都町田市はもともと湧水が多い地域ですが、宅地造成や水路に蓋がされるなどして、身近に湧水があることがわかりにくくなっています。湧水は、人々に潤いと安らぎを与え、水に親しむ場となることができるほか、災害時の水資源としての活用、微気象緩和、生物の生息空間形成などの多面的な効果機能があります。町田市の鳥であるカワセミも生息ができるのは、市内に多くの湧水があるおかげです。この湧水マップで、足元に流れる身近な湧水を知って、自然豊かな“ふるさと町田”に気付いていただければ幸いです。

『くじら山』の緑を考える会

湧水マップの作成について

湧水の大切さ、市内の湧水の豊かさを多くの人に知ってもらえるように、この町田市湧水マップを作成しました。

作成経緯

2019年８月から、市民参加調査として、湧水情報を広く募集しました。その結果129地点の情報が集まりました。

集まった情報を基に2020年から2021年にかけて、現地確認調査を行いました。また、現地確認調査の一環として一般参加者を募った「湧水めぐりウォーキング」を開催しました。現地確認調査の結果、117地点で湧水が確認されました。

その後、町田市や関係者との確認調整等を行い、位置が近いものは１地点としてまとめたり、民有地などで掲載がふさわしくないものを除いたりするなどし、72地点の湧水を掲載することとし、本マップを作成しました。

湧水調査協力者・団体（５０音順・敬称略）

小山のホタルと自然を守る会、芹ヶ谷の自然と絆を育む会、東京都多摩環境事務所、都立陵南公園、町田市、畑仲清、広袴公園・鶴川台せせらぎ緑道を守る会　山本隆治、樋渡敏彦、本町田真之山ふるさとの森を守る会、本町田むかいかみ緑と湧水の会、本町田ふるさとの森ボランティアの会、梁田寺

『くじら山』の緑を考える会

緑や湧水、動植物などの自然環境を保全、再生し、もって後世により良い環境を提供する事を目的とし、町田市立「本町田くじら山湧き水公園」で町田市の「公益的活動団体」として公園や湧水の流れの清掃・維持管理など、各種保全活動を行っている２０１３年に設立した市民団体です。

発行　『くじら山』の緑を考える会

事務局 kujirayama.machida@gmail.com

２０２１年（令和３年）１２月発行

写真　小滝英俊

本マップの一部あるいは全部を無断で複写・複製することは禁止します。

表紙写真　左上：本町田清水児童遊園　右上：芹ヶ谷公園
左下：つくし野殿山特別緑地保全地区　右下：小町井戸
地形写真　奈良ばい谷戸

湧水とは

地下水が、地表面や池底等に自然に湧き出てくるものを湧水（ゆうすい）といいます。湧（わ）き水、清水（しみず）などとも呼ばれます。湧水は年間を通して水温が安定していて、町田市あたりでは１５℃程度となっており、夏は冷たく、冬は暖かく感じます。

湧水のはたらき

◆人を元気にする

人に潤いと安らぎを与えてくれる。水と遊んだり、水に親しめる場所となる。

◆水資源としての利用

水田など農業用水としての利用。洗い物など生活用水としての利用。（災害時にも活用できる。）

◆微気象緩和

蒸発散作用により周辺環境の気温を下げ、ヒートアイランド現象を緩和する。

◆生物の生息空間

水に関係する多くの生きものが暮らしていける場所となる。

湧水はどこからくるの

湧水は地下水ですが、地下水の主な源は雨です。地形の関係から、降った雨が地表面を流れてその川に流れていく土地の範囲をその川の流域といいますが、地下水は、その流域内に降った雨だけでなく、流域の外からも地面の中を流れてきていると考えられます。地面の中なので、どう流れているか詳しくわからないのですが、町田市内の湧水は、高尾山など関東山地のほうから流れてきているのかもしれません。

湧水と地形

町田市の大部分は起伏のある丘陵地であり、生活の中に坂があるのが当たり前です。地形は、長い年月をかけて変化しますが、水が流れるところは土砂が削られて谷になっていき起伏ができていきます。町田市には入り組んだ多くの谷戸がありますが、谷戸の上流部には必ず湧水があります。坂のある“ふるさと町田”の地形の形成にも湧水が関係しているのです。

湧水と生きものたち

湧水があるおかげで多くの生きものたちが暮らすことができます。湧水地で見られる主な生きものを紹介します。

サワガニ

大きさ３、４ｃｍくらい。陸上の樹林地でもよく活動しているカニです。大きいものは青白っぽい色をしています。

ホトケドジョウ

ふつうのドジョウよりも丸い顔をしています。国や東京都の絶滅危惧種になっています。

オニヤンマのヤゴ

トンボの幼虫であるヤゴは水のなかにいますが、日本最大のトンボのオニヤンマのヤゴは湧水の流れを好みます。

湧水と人間の歴史

飲み水をはじめ、人間が暮らしていくために水は欠かせません。水道や深い井戸を掘る技術もなかった昔の時代では、湧水は人間にとって貴重な水資源でした。町田市内にも多くの遺跡がありますが、その周囲には必ずと言っていいほど湧水があります。湧水が豊富な町田は、昔から人間が住みやすかった場所なのです。そして、稲作が始まった時代以降、土木技術が発達していなかったころは谷戸の湿地が水田耕作の場所として重要でした。町田市内では谷戸の湧水を利用した谷戸田が作られ、現在まで続いています。また、古くからある寺社もその近くに湧水があるものが多いです。そして、湧水自体が信仰の対象ともなり、水神様や弁天様などが祀られ、今でも祠などが残っている場所もあります。さらに、町田市内の古くからの地名のなかにも「井出の沢」や「今井谷戸」など、湧水に関係するものがいくつもあります。
このように、湧水は町田市の歴史や文化にも深いかかわりがあるのです。

湧水はどこに流れていくの

雨水と同様に湧水も、水路や川に流れ込んで最後は海に流れていきます。町田市のほとんどは境川流域と鶴見川流域です。境川流域の湧水は境川を通り江の島近くの相模湾に、鶴見川流域の湧水は鶴見川を通り東京湾に流れていくのです。町田市は湧水が多い「湧水都市」ということだけではなく、一級河川鶴見川、二級河川境川の源流がある「源流都市」でもあるのです。